

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...



伊勢うどん、洗面器、段ボール

Vol.20



東日本大震災から間もなく8年、阪神淡路大震災からは早いもので24年も時が過ぎました。発災当時はどちらも寒い冬のさなかでした。

私が初めて災害ボランティアとして現場へ出向いたのは、阪神淡路大震災の折でした。鳥羽小へ避難してきた子どもがいた。ご縁で神戸市東灘区の小学校へ。2月上旬のことでしたので、発災からは半月ほどたったところです。伊勢うどんと蒸しガキで炊き出しを行いました。うどんにのせたネギに顔を寄せ「あー、おネギの香り久しぶり」と歓声を上げられたこと、また元氣になって伊勢志摩へ来てくださいな「とひとこと添えて丼を手渡す時に、胸がつまって泣きそうになったことを今でも鮮明に覚えています。

また、伊勢うどんは究極のファストフードで甘い汁がとでも喜ばれたこと。当時の現地の悲惨なトイレの状態を考

えると、汁自体が少ないのは避難所向きの食事かもしれないなと思います。

一方、カキはこういった類いのものが炊き出しにふさわしいのかどうかもわからず、米袋に3袋くらい詰めて持っていました。蒸して提供したのですが、「こんな貴重なものを、こんな場面で食べられるとは」とこちらも大評判でした。

炊き出しの合間に避難所を見てまわりましたが、発災から半月では、まだお風呂は設置されるような状況ではありませんでした。それ以来、毎冬こんなトレーニング(?)をしています。それは洗面器1杯のお湯で頭を洗えるか、という実験です。いざという時を想定してみなさんも試してみたいかがですか。髪の毛の量が少ないから、というわけではありませんが、私はなんとか洗えますよ。

先日、八木段ボールさんと災害時に段ボールベッドを提

供いただく協定を結びました。締結時には市長室にて試供品を組み立て、感触を確かめることができました。体育館の床で立ったり座ったりするつらさをぐっと低減できそうです。また、土やほこり混じりの床面から距離がとれるのも衛生面からとてもいいと思います。これを人数分、各避難所へ備えるのは現実的ではありませんが、形のそろった段ボールさえあれば、どこでも実践可能な工夫だと、ヒントをいただきたいと思います。どこでもわが事、防災訓練です。



洗面器1杯 (2.5L)

洗面器1杯のお湯で頭を洗えるか？
試してみてください



段ボールベッドを組み立ててみました。快適です



Vol.178

教育委員会生涯学習課 ☎ 1268

来た道・行く道

新幹線の指定席の中で出会ったお話です。

静かな新幹線の中で赤ちゃんの泣き声が響きました。周りにいた人たちは泣き声に迷惑そうな顔をしました。なかなか泣きやまず、若い母親はいたたまれなくなり、子どもを抱いて車両デッキに逃れました。本来なら座れる場所があるにもかかわらず、周りの目も気にならず、周りの人への気遣いから、デッキであやしていました。しかし、赤ちゃんはなかなか泣きやまず、経験の少なそうな母親は困惑している様子でした。

迷惑そうにする客のなかで、優しいような女性がその母親に「おむつがぬれていないか。おなかですいていないか」などいろいろと聞いてみたそうです。

若い母親は冷静さを取り戻し、落ち着いてやってみたとです。やがて静かになった赤ちゃんを抱いた母親は、アドバイザーとしてくれた先輩女性に礼を言いつつ自分の座席に座ることができました。

過去の子育ての経験が若い母親に伝わり、経験を素直に受けとめ子どもに接した。お節介おばさんのような関わりが過去の日本には色濃くありましたが。必ずしも過去の体験が正しいとは言えませんが、核家族化の中で経験の伝達が妨げられているのかも知れません。

また、お年寄りとして接していただくことは、以前できたことができなくなるのです。そのお年寄りをどうお手伝いしたらよいか、日常生活を共にする機会がないと分からないことが多いものです。お年寄りと接することを通して、若い人たちに優しさを学んでもらえることにつながると思います。

人生は連鎖します。「子ども叱るな来た道だもの、年寄り笑うな行く道だもの」子どもには見守りを、お年寄りには手助けを。弱い立場の人に対する思いやり・行動を心にとどめたいものです。